

2022 年第 3 回 IEEE 東京支部理事会 議事録 (案)

日 時：2022 年 9 月 6 日(火) 15:00～17:30

場 所：住友電気工業株式会社 および オンライン

出席者：中野 Chair、小林 Vice Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer
坂東 COC Chair、粕川 FNC Chair、横田 MD Chair、笠 NC Chair、
松尾 TPC Vice Chair、津村 PC Chair、中村 SAC Chair、鈴木 HC Chair、
奥村理事、今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、
滝嶋 Past Secretary、羽瀨 Past Treasurer

オブザーバ：西宮 SIGHT IEEE Tokyo Section Chair、大野 JC SAC Chair、
Japan Office 梶川氏

事務局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)
 2. 2021-22 東京支部理事会構成 (資料 2)
 3. Japan Council 理事会(2022 年第 2 回)報告 (資料 3)
 4. 2022 年中間会計報告 (資料 4)
- 質疑応答(議題 1-4)
5. 委員会活動報告 (資料 5)
 - ・ Chapter Operations Committee (資料 5-1)
 - ・ Fellow Nominations Committee (資料なし)
 - ・ Membership Development Committee (資料 5-2)
 - ・ Nominations Committee (資料 5-3)
- 質疑応答(議題 5 前半)
- ・ Technical Program Committee (資料 5-4)
 - ・ Publications Committee (資料 5-5)
 - ・ Student Activities Committee (資料 5-6)
 - ・ History Committee (資料 5-7)
- 質疑応答 (議題 5 後半)
6. Affinity Group 活動報告 (資料 6)
 - ・ Life Members Affinity Group (資料 6-1)
 - ・ Young Professionals Affinity Group (資料 6-2)
(Educational Activities Committee)
 - ・ Women in Engineering (資料 6-3)
- 質疑応答 (議題 6)

- 7. その他 (資料 7)
 - ・ SIGHT 報告 (資料 7-1)
 - ・ 2023-2024 年 IEEE 東京支部理事・委員等の選定について (資料 7-2)
 - ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 7-3)

- 8. 討論テーマ (資料 8)
 - ・ Student Branch の活性化と組織化について (資料 8)

議事進行に関し、6. Affinity Group 活動報告「Young Professionals Affinity Group (Educational Activities Committee)」については議題 8 の後に実施したが、議事録においては当初議題順の通りに記載した。

上記を除き、議事は議題に記載の順で進められたが、議事録においては読みやすさの観点で各報告に続き対応する質疑応答を記載した。

議事：

0. Chair のご挨拶

1. 前回理事会議事録の確認 【審議→承認】 (資料 1)

報告：Secretary

異議なく承認された。

2. 2021-22 東京支部理事会構成 (資料 2)

報告：Secretary

従来からの変更点として、TPC Chair の所属が変更となり、また Student Activities Student Representative が東京理科大の小松様に決定した。

3. Japan Council 理事会(2022 年第 2 回)報告 (資料 3)

報告：Secretary

Japan Council 理事会は 7/15 に広島ガーデンパレスにおいてハイブリッドで開催。冒頭で Robert's Rules of Order について説明があった。IEEE ではこのルールを使うことが bylaws によって定められ、Japan Council もこれに従う。次期役員選出は、Chair、Vice Chair 等、1 名のみのおすすめとなり選挙にはならず。本年度の中間会計報告および予算修正では、対面の機会増え、人を派遣する機会も増えるとの趣旨で予算の修正が承認された。理事会は、広島支部で開催され、広島支部から HISS 学生が企画するシンポジウムの

紹介があり、質問が多数あった。

COC は、ミーティング開催の報告。SAC は、LTWS 開催報告と今年もマンガプロットコンテストを実施し今年 WIE 賞を設ける報告があった。AC は、AC Chair の退任後は浅井氏が後任となる。IPC は、MAW2022 の翌日(10/4)に Industry を加えた SYLW+I を開催する。MAW は来年信越支部で一巡するのでその後の活動についてアンケート実施予定。LRSC は、フェロー駆け込み寺の施策の推進、好評だったフェロー申請者向けのウェビナーを今年も開催。EA は、MAW に EA 支援として高専の方を招待。事務局業務システム化について提案があり、承認された。協賛国際学会への IEEE ブース設置について、4 件を進めていく。SNS 運用開始に関して準備を進めている。

質疑応答

Past Secretary : 事務局業務システム化は、JC で実施が承認され、費用を JC が負担すると思う。一般的な事務費用は東京支部と JC で一定の割合で負担するが、今回、東京支部の扱いはどうなるのか。

Treasurer : 東京支部の支出分も承認を取る予定。

Past Secretary : 国内組織の銀行口座運用については、参考になる情報があれば東京支部の COC の中でも共有するとよい。

Past Secretary : TENCON の余剰金については、東京支部にも入金されることを言及しておく。

Secretary : デジタルの日については、去年はデジタルの日のロゴを使わせて頂き 5 件程度のイベントを実施した。本年は新しくこのためにイベントを実施する必要はないが、デジタル関係のセミナー等が実施される場合には内閣府に連絡すればロゴが使用可能なので積極的にお使い頂きたい。事務局か **Secretary** 迄連絡を頂きたい。

4. 2022 年中間会計報告

(資料 4)

報告 : **Treasurer**

8 月末における中間会計報告として、収入は円安影響もあり増加。特記事項として今回東京支部の Senior Member の Elevation Nomination Incentive として「その他 Fund」に収入があった。支出は、理事会の項がゼロになっているが年末の理事会で支出予定。LMAG、WIE は今後イベント開催予定。YP と SB 支援費は確認する。予備費として、MAW への参加支援の支出を予定している。

質疑応答

Past Secretary : JC の予算と同様に、支出が思うよう進まず繰越金が増える状況になっている。今後の対応を東京支部として考えた方がよい。

5. 委員会活動報告

(資料 5)

・ Chapter Operations Committee

(資料 5-1)

報告 : COC Chair

Technical Co-Sponsorship に関する申請依頼を受け、その対応を審議した。

・ Fellow Nominations Committee

(資料なし)

報告 : FNC Chair

各企業の窓口の方々から各研究機関での **Senior Member**、**Fellow** の推薦者数を出して頂き今日報告する予定だったが、残念ながら叶わなかった。1月に新たに **Fellow** に昇格した方々のアンケートを見ると、同僚や先輩からのアドバイス、背中を押してもらったことが **Fellow** 申請をした大きなトリガーだった。今期 **FNC** 活動の方向性は間違っていないかと思っていたが、今回は強制性のような受け取られ方も少しあり、アンケート結果のようにアドバイスや背中を押すこととのバランスの難しさを痛感している。作戦を考えて臨みたい。次期 **Chair** は早稲田大学の先生なので、企業から大学へ変わるとどうなるのかも合わせて考えていきたい。

質疑応答

Vice Chair : 活動している中で数字が出てこないという事だが、内部では、「先輩に言われているがなかなか動けない」という意見がある。何か会社・組織として後押しし、組織の内部に踏み込まないと最終的な数字も難しい。それぞれの組織でどうするか継続的な話し合いをした方がいいかと思う。

FNC Chair : 各企業で温度差があり、文化が違うので、それぞれの機関でその会社のシステム、雰囲気、社風等を考慮しながら一度会社内で話し合っ頂くのは有効かと思う。ただし、本質的に **Fellow** 昇格のインセンティブの部分は企業が動機づけをして行って欲しい。ある企業ではホームページに **Fellow** 昇格者と **Senior Member** 昇格者の名前が出ており、それが一つのインセンティブになる。そこに紐づけないと難しいと痛感している。次期 **Chair** が早稲田大学の森田先生になるので、メーカーサイドと大学サイドとでどういったアプローチが成り立つか、話し合いたい。各機関には各企業風土に合った作戦を話し合っ頂くように投げかけてみたい。

Vice Chair : 企業側でどのようなインセンティブが与えられるかは難しい。例えばホームページで昇格者を紹介することなど、それぞれでの取組みを知ることによっても企業側の対応が変わるかと思う。

FNC Chair : 好事例として紹介しながら投げかけてみたい。日本では東京支部で新たに **Fellow** に昇格した方が 11 名だったが、その中で外国の方が 3 名含まれていた。その方は、周りの声は関係なしに自分のキャリアアップのために申請をしたとのこと。日本人らしさではない部分もマインドセットとして必要かと思う。

HC Chair:元々企業にいたがその中に「IEEE フェローの会」があった。30名位の Fellow が年に1回集まって Fellow 昇格者に講演して頂き、次に誰をお願いしようかとミーティングを開いている。各製作所や研究所に必ずノミネートしてください、と非常にアクティブに活動している。そういったことも効果があるかと思い、参考まで紹介した。

Past Secretary: 様々な情報を共有することが重要である。様々な問題点や意識があるので、課題とベストプラクティスの両方を集めてシェアする場を作っても良いのではないか。JCではFellowに関する取り組みとして、セミナーを開催したり「駆け込み寺」に取り組んだりしているが、東京支部の企業の中にそのような情報がどこまで伝わっているかの課題もあると思う。関連の情報をうまく回す仕組みに取り組んでもよいと考えている。

・ Membership Development Committee

(資料 5-2)

報告: MD Chair

東京支部の会員は、昨年比で合計 50-60 人の微増。学生会員は、昨年比で 100-110 人程度増。Senior Member の昇格者数については、前回 2022 年 6 月以降の増分として 9 名。現時点では 25 人の Senior Member への昇格者数。継続会員ピンバッジとシニアメンバー昇格メダルに関するアンケートは、追加で 19 件程度回答を得た。ほぼ全員が「ほぼ満足」以上との結果。7 割近くが「非常に満足」で、ピンバッジ、シニアメダルともに満足して頂いたと判断している。会員資格更新のリマインドを実施。国際学会の JC ブースで、MD 活動の紹介としてピンバッジの配布事業の説明とピンバッジ現物の展示を行った。今後の予定としては、IEEE 会員特典の周知とリマインドとして IEEE Day の入会特典キャンペーン等について周知していきたい。

質疑応答

Past Secretary: ピンバッジについてのアンケート回答に関し、ピンバッジは在籍年数により色が変わるが回答者は何年程度の方が多いか。

MD Chair: アンケートでは取っていない。基本的には長い年月の方が多いかと感じている。

・ Nominations Committee

(資料 5-3)

報告: NC Chair

7/29 から東京 Bulletin 第 139 号に公告を出し、8 月末日締切で役員と理事候補者の追加指名を募っていたが、結果として指名はなかった。今後の進め方は、本理事会で追加指名が無いことを報告し、その後支部会員へ報告。12/1 の第 4 回理事会で理事会承認理事、東京支部代表 JC 理事、常設委員会メンバーの承認をする。その後 2023 年の 1/1 に

自動的に新役員、理事に就任頂く。指名候補者の承認は、例年のように 2023 年の総会で事後的に承認を追認頂く。次期の VC と Secretary の候補者名については、常設委員会の各 Chair においては次期の VC と Secretary の候補者名について 11/18 までに NC へ連絡して欲しい。

・ Technical Program Committee (資料 5-4)

報告 : TPC Vice Chair

TPC 主催で講演会を 3 件開催。8 月末に静岡大学で丹沢氏が講演を行い、オンラインで 80 名が参加した。第 2 回の笠原氏の講演は、10/6 に延期開催で調整中。YP との連携は量子等をテーマにした合同講演会開催を検討中。

・ Publications Committee (資料 5-5)

報告 : PC Chair

東京 Bulletin139 号(支部役員理事候補者の公告)を 7/29 に発行し、140 号(東京支部理事会、イブニングサロン、講演会、自動更新の案内)を 8/9 に発行した。141 号は YP Chair の報告を掲載する。IEEE Day キャンペーンの案内を YP の記事と併せ発行したい。講演会等は関係者と相談して発行日を決める。R10 Newsletter は July Newsletter が発行されており、東京 LMAG の投稿が掲載されている。

・ Student Activities Committee (資料 5-6)

報告 : SAC Chair

電気通信大学で LaTeX 講座を実施。参加者 27 人のうち IEEE 学生会員が 10 人だった。今後の活動予定は東京工業大学で深層学習勉強会、東京電機大学で勧誘会を行う。東京電機大学 SB と青山学院大学 SB を中心に、SB 活動活性化に向けて 11 月に Student Branch Research Presentation Encouragement Workshop を開催する。役員報告が未提出の 4 つの SB に対し、カウンセラーに役員報告を依頼。慶応大学の先生から活動意欲のある学生がいないと連絡があり、東京大学からも JC SAC 宛に返信があった。横国大も JC SAC で連絡が取れ、定年に伴いカウンセラーを交代する旨の連絡があった。

質疑応答

WIE Chair : TOWERS に関し、担当者から実施する旨の連絡が無いということか。

SAC Chair : その通り。我々は HP を見て知った。参加者や予算の連絡も無い。

Chair : 役員報告依頼の件、カウンセラーはベテランが多く、交代していない印象。本人もカウンセラーである自覚が無く、覚えていない可能性もある。新しい人に交代する仕組みにすると良いか。役員報告を依頼したこと自体が様々なことを示唆している。SAC Chair が各大学に依頼するのは大変だと思う。

Secretary : TOWERS について、こちらから連絡する手段はあるのか。

SAC Chair : HP を確認すると、誰が委員長なのかは判明している。連絡を取り、今後のことを聞きたい。

Secretary : WIE も関係しているので、情報共有しながらお願いしたい。

・ History Committee

(資料 5-7)

報告 : HC Chair

東京支部でマイルストーンの申請をしている 5 件について進捗状況の報告。名古屋支部の QR コードは 9/26 に授与式が行われる。

質疑応答

Secretary : QR コードのマイルストーン授与式が行われる。WEB から参加可能のため、積極的に参加して欲しい。

6. Affinity Group 活動報告

(資料 6)

・ Life Members Affinity Group

(資料 6-1)

報告 : LMAG Chair

LMAG-Tokyo ニュースレターを 9/1 に発行。今回は葉原氏に LMAG 創立当初の話を寄稿頂いた。新しいニュースレターの方向性を出せたと思う。会員サービスとして、各講演会に共催。LMAG 主催の講演会も行った。KDDI 送信所見学会を実施した。好評であり、定員 20 名に対して 25 名の応募があったが、対応頂いた。9 月に JAXA を見学するが、申し込みが多く、1-2 時間程度で定員に達した。10 月末には羽田整備工場の見学会を予定。韓国の SYWL に参加した。東京支部 LMAG の活動が優秀だと顕彰を受け、賞状が届く予定。IEEE Life Members Newsletter(August Issue)に LMAG-Tokyo の活動が掲載された。R10 に 2 件の予算申請について、12 月に LMAG 戦略会議を開催予定。

質疑応答

Secretary : R10 SYWL のレポートについて説明して欲しい。

LMAG Chair: 8/11 から 8/14 まで韓国の済州島で SYWL が開催された。東京支部 LMAG から LMAG Chair と LMAG Vice Chair が参加。JC からは LM Coordinator が Invited speaker として参加した。SYWL は SAC,YP,WIE,LM が母体となっている。全体で 130 名が参加し、マイルストーンについて話をした。他支部からマイルストーン申請方法について尋ねられ、支部に HC があることが羨ましいと言われた。韓国の方が 2 件程申請したいと話しており、うち 1 件は CDMA とのこと。コロナ禍での開催だったため参加人数は少なかったが、活発な印象であった。次回開催も対面で行うとの

話がある。

HC Chair : 4年前に HISTELCON というヒストリーの IEEE シンポジウムを日本で開催した際、韓国から数名が参加していた。CDMA の論文を発表していたと思う。その際アメリカのヒストリーセンター所長にアピールしていたが、申請は停滞していたのか。

LMAG Chair : 準備中とのこと。R10 では 40 件が日本から申請されており、あと 5 件程がインドとオーストラリアから。圧倒的に日本の件数が多く、申請方法を知りたがっていた。

Secretary : 中国も無いのか。

LMAG Chair : 中国も無い。R10 が 2 つに分かれると、日本はリーダーシップを取ることになるはず。

• **Young Professionals Affinity Group (Educational Activities Committee)** (資料 6-2)
報告 : YP Chair

「Find Your Major」を実施した。エピソード 1 では大規模に、アメリカの Massachusetts Institute of Technology にて YP とのコラボレーションとして「Information Engineering」の分野を紹介して頂いた。非常に良いイベントになった。オーディエンスの方からも良い言葉を沢山頂いた。IEEE の Transactions on Information Theory の Editor-in-Chief を担当する先生が YP から直接参加。エピソード 2 も 8 月に開催。資料提出時にレポートが完成していなかったため、次回説明する。シンガポール研究開発センターの Agency for Science と Technology and Research の分野を紹介頂き、ASTAR で日本の学生がどのインターンシップでどの仕事ができるのか、紹介を頂いた。発表者の方は以前日本で少し働いており、日本人の学生を欲していた。9/19 に学生と研究者に向けて IEEE 論文の書き方のワークショップを行う。「Find Your Major」エピソード 3 は海外の大学とコラボすることを検討中。コロナウイルスの影響でテレワークの人が多いため Mindfulness と Self-care についてワークショップの開催を検討している。女性のキャリアをサポートするためのウェビナーも考えている。IEEE Tokyo YP STEP も企画中。

質疑応答

Secretary ; 昨年は YP radio や Machine Learning のセミナーを開催していたが、今年開催は無いのか。

YP Chair : YP radio は今年 1 回開催した。スピーカーがいなかったため、今はやっていない。

Secretary : 昨年は毎月 1 回ほど開催していたのでは。

YP Chair : 昨年はトータルで 7 回か 8 回ほど行った。

Secretary : ぜひ継続して欲しい。

・ Women in Engineering

(資料 6-3)

報告 : WIE Chair

9/3 に役員会を信州大学にてハイブリッド形式で実施した。東京と信越のジョイントセクションのため、一度は信越に行きたいと考えていた。6/23 にオンラインコーヒーブレイクを開催。18 名が参加した。11/4 に共催イベントとして EA が Career Navigator を行うため、WIE も協力予定。学生と WIE Vice Chair が Career Navigator に参加し、理系の面白さを中学生に伝える。WIE2022 を 11/12 にハイブリッド開催する。会場は日本科学未来館を予定している。大倉氏とインドで鉄道を作った女性の方に講演をして頂く予定。

7. その他

(資料 7)

・ SIGHT 報告

(資料 7-1)

報告 : IEEE Tokyo SIGHT Chair

Engineer Spotlight と Career Navigator に共催した。Engineer Spotlight は ITS Society が後援し、モビリティサービスや自動運転といった Humanitarian Activity に関連が深いため、昨年から共催している。Career Navigator は TOWERS で始まった小中高生向けのキャリア教育を出張事業とする形式。東京都小平市の中学校から依頼があり、開催する。SIGHT の Secretary は今年 3 月に卒業し、社会人として働き始めたため、若者向けのキャリアの説明に適している。

・ 2023-2024 年 IEEE 東京支部理事・委員等の選定について

(資料 7-2)

報告 : Secretary

東京支部役員理事に関して、本年最終の理事会にて正式に選出される。常設委員の現 Chair は次期 Vice Chair と Secretary の候補者を、受託の意思を確認後に 11/18 までに NC へ連絡して欲しい。常設委員以外の理事会メンバーについては、受託意思の確認後に次期候補者を 10 月末までに事務局宛に連絡をお願いしたい。

質疑応答

Past Secretary : LMAG, YP, EA, WIE の Vice Chair や Secretary はいつ決まるのか。理事会でシェアはされるのか。

事務局 : Chair 以外のメンバーは理事会で承認不要。組織の状況は年末の理事会で情報提供していた。

Secretary : 次回の理事会は 12/1。Vice Chair と Secretary の情報はひと月で集まると見込んでこの日程にした。

Past Secretary : 常設委員会の Vice Chair と Secretary の情報は本部登録の関係で早めに欲しいのか。なぜ LMAG や YP 等は後で良いのか。

事務局 : 理事会承認の後に本部登録を行うので、急ぎではない。事務局では常設委員会の Chair 以外のメンバーは登録を行わない。

Past Secretary : LMAG や YP、EA 等の Vice Chair や Secretary は各グループで登録するのか。

事務局 : Affinity Group の LMAG, YP, WIE は登録が必要だが EA は Committee のため特に登録は行わない。理事会のメンバーとして、EA Committee の Chair は登録する。

Past Secretary : 理事会メンバーは登録が必要のため早めに情報が欲しいと理解した。Vice Chair と Secretary 等の情報は見える化するのが大事だと思う。常設委員会は資料にも記載があるので体制が明らかになっているが、YP や EA 等の体制も常に見える化し、共有することで内部の結束が強まると感じる。

LMAG Chair : 10 月末は厳しい。候補者を 9 月中に回覧するが、他に候補があれば選挙になる。

事務局 : まずは現状の情報を共有して欲しい。その後、確定情報を報告して欲しい。

・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧

(資料 7-3)

報告 : Secretary

R10 からのメール一覧。関係する Group と Committee には Secretary から適宜転送している。

8. 討論テーマ

(資料 8)

・ Student Branch の活性化と組織化について

(資料 8)

Secretary : 前回の理事会で、SB から本部へ Annual plan の提出があれば本部から SB への Rebate が支払われ、好循環になることが共有できた。提出のない SB のカウンセラーへの督促が有効だと話があったが、実際は連絡が取り辛い状況。カウンセラーは変えられず、学生にカウンセラーを任命する権利がある実情も判明した。Chair から定期的にカウンセラーが交代する仕組みが必要だとして指摘があった。まず、各 SB が Plan を提出するにはどうすれば良いか。

SAC Chair : 役員自体が決まらなければ、Plan の提出もない。どのように SB 役員を選出するかは引継ぎの問題にもなる。やはり各 SB を見ると引継ぎがうまくいっていない SB が多く、何が出来るかが焦点となる。

Chair : 引継ぎが上手くいっている SB はどのようにしているのか。

SAC Chair : 全般に引継ぎが上手くいっている SB は無い印象。

Chair : 常に入学しては卒業する学生の仲立ちをする立場となる人が必要だと思う。

SAC Chair : SB において Chair は M2、Vice Chair は M1 というローテーション構成。

SAC とのやり取りが Chair で止まっているので、SB 内で共有することが必要。

Chair : ノウハウを仲立ちし、情報を渡す役割としてカウンセラーが重要になるのか。

SAC Chair : その通り。ただし、学生メンバーとカウンセラーとが連絡を取れていない SB もあるようだ。SB のメンバーが同じ研究室で、違う研究室の先生がカウンセラーだと、情報共有やコミュニケーションが少ない。情報共有が SB 内でできていない。

Chair : JC 理事会に参加した際、広島支部がうまく活動していると感じた。上手に活動している SB があれば、JC SAC Chair から方法を共有頂ければ良い。SAC Chair の元には情報が届いているか。

SAC Chair : 他 Section の情報はない。

JC SAC Chair : コロナ禍のため SB がうまく活動しているか見えていない状況。2年間、1回も学生と顔を合わせていない。沖縄で開催する SBLTW を機に JC 全体で活性化したい。広島支部の学生活動は、主要メンバーが広島支部 SB に入っていない。岡山大学と広島大学に SB が無い。広島支部 SB と学生の活性化が結び付いていないため、上手くネットワーク化できれば良い。

Secretary : SB の役員が決まらないのが問題。SBLTW では企業インターンシップの紹介をし、積極的な学生を見つける努力をした。

R10 SYWL に参加した学生が徳島開催の SYWL の Co-Chair に立候補した。広島支部の HISS は学生が運営しているが、SB への引継ぎは難しいと感じた。カウンセラーありきでは無く、核となる学生の研究室の先生に依頼する流れが作れると良い。

Chair : カウンセラーは学生が選ぶのか。

JC SAC Chair : bylaws によれば学生が任命する。しかし実際は先生から働きかけることが多いと思われる。

Chair : 学生が最後に決めるのであれば、良い。

JC SAC Chair : 活性化させるカウンセラーを選ぶのは良い案。

Chair : 東海大学 SB のカウンセラーは誰か。

WIE Chair : 東海大学には SB が無い。

Chair : SB はどのようにして作るのか。

JC SAC Chair : 12 名以上の学生会員が必要。

Chair : 東海大学は人数が足りない等の理由があったのか。

WIE Chair : 人数を集めることは可能。実際に SB 設立を考えたこともあった。私(WIE Chair)が活性化させねばと思ったが、それで良いのかとも考えた。学生も就職活動や研究で忙しく、SB 継続のためには就職等にダイレクトに繋がるようなベネフィットが無いと難しい。カウンセラーも尽力している中、忙しい学生に活性化を求めるのは難しいと思う。

実現したいことがある学生の支援に注力した方が良い。SB を小休止する仕組みはあるのか。設立してからずっと活動を続けることや、再び活性化させることは大変だと思う。

SAC を纏める先生方の負担も減るので、小休止しながら継続させることができれば。

SAC Chair : 小休止のシステムは無い。申し入れをすれば、無くすことは可能。SB 活動自体を楽しみながら行うのが一番。

WIE Chair : IEEE Tokyo SIGHT Chair と JC SAC Chair が学生を巻き込んで、SB が活性化し、活躍した学生がそのまま YP にいる流れがあった。YP と連携できれば良い。YP や WIE にもメンターになる若手がいるのでそのように繋がっていけば良い。

Chair : SB だけで活動するのは難しい。彼ら自身も忙しいため迷惑に思うかもしれない。YP、WIE や LMAG 等と繋がり、SB を連携のひとつとして捉える。学ぶことも多くあるため、繋がりの中で SB を運営し、SB 独自の活動よりも、常に他と一緒に活動することで、上の年代の方々と活動で学ぶこと、活動して良かったと思ってもらう形が良いだろうか。Plan 提出を促すと、SB が困る状況に陥っているのであれば、少し責任を下げ、活動に参加する権利を持ってもらうのはどうか。提出を促すことが学生の重荷になっては逆効果。

SAC Chair : Plan の内容は本部に見られていないため、提出をしてベネフィット(Rebate) をもらうだけでも良い。東京支部の方々も沖縄の SBLTW に参加し、学生と話をしたい。今の学生像が見えてくると思う。

Secretary : 早稲田大学や電通大等は懇親会開催など上手く活動している印象。兆しはあるのか。

SAC Chair : 電通大の活動自体は上手くいっているが、引継ぎは上手くいっていない。早稲田大学は役員報告のみだが、今年度は活動すると聞いている。SB のみだとノウハウが無く、ゼロからワークショップの開催は難しい。YP 開催のワークショップに共催し、運営の様子を見てもらうのが良い。WIE や YP と協力し、共催として入るのが良い。

理事 : SB は 1 大学でなく、複数の大学が集まって設立するのは可能か。例えば、活性化していない SB を統合するなど。WIE や YP との縦の連携はあったが、横の連携もあれば良いと思う。

SAC Chair : 横の連携は対面で他の SB と知り合い、次の企画を話し合うことは可能だが、コロナ禍の影響でオンラインになってしまった。飲み会で他 SB と仲良くなり、ワークショップを開く企画をした経験がある。

理事 : 広島支部の HISS は活性化しているが SB に入っていない。学生主体で様々なことを行っているのであれば、複数の大学が統合する結末の仕方もあるのでは。

JC SAC Chair : 支部ランチという制度があり、新設であれば支部傘下の SB の設立は可能。既存 SB の統合はできない。例えば、岡山大学と広島大学で新設の SB を作るのであれば 12 名の署名が必要で、核になる学生が必要。この学生が見つからないのが問題点。

Secretary : まず、我々が学生がいる場所に参加して話を聞くことと、学生の役に立つこと

を行わなければ Plan 提出を促すことは難しい。11 月の SBLTW 参加や、各 Committee、Group で開催するメインイベントに学生を招待するなど、できるところから始めたい。

以上